

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-055642

(43)Date of publication of application : 25.02.1997

(51)Int.Cl.

H03J 7/28

H03J 5/02

H04B 1/16

(21)Application number : 07-208887

(71)Applicant : NEC IC MICROCOMPUT SYST LTD

(22)Date of filing : 16.08.1995

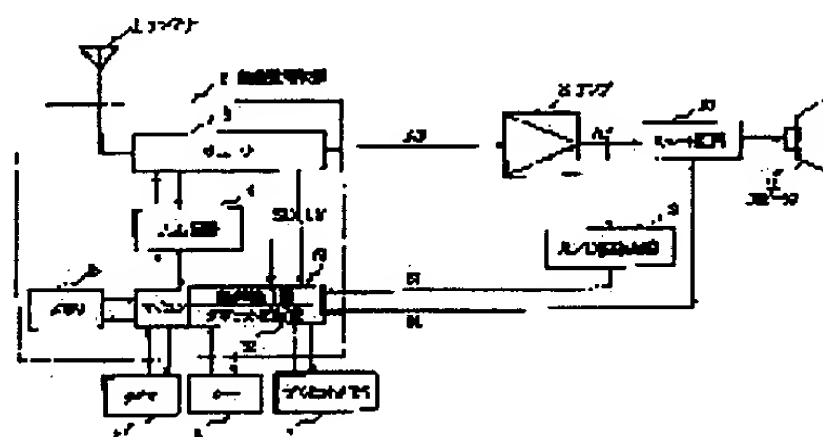
(72)Inventor : TACHIBANA YUKIO

(54) RADIO RECEIVER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To eliminate the need for updating preset by the user by providing a silence detection means and a preset update means to the receiver and storing automatically a broadcast station with excellent reception state to a preset memory at all times by using a silence period.

SOLUTION: A silence detection section 51 detects a silence state and when the silence state is consecutive for a prescribed time or over, a preset update section 52 discriminates that the processing is enable within the silence period for update processing. A preset frequency in the preset memory 7 is read in the 1st processing and the frequency is read and the reception acceptance of a broadcast station of the frequency is discriminated and the result is stored in a memory 16. A non-stored frequency is received in the memory 7 in the 2nd processing and the reception acceptance of the broadcast station of the frequency is discriminated and the frequency whose reception is discriminated to be enable for the broadcast station and the level of the electric field strength signal are stored in the memory 16. In the 3rd processing, a preset update object frequency stored in the memory 16 in the 2nd processing is written in the memory 7 in place of a reception disable frequency stored in the memory 16 in the 1st processing.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 16.08.1995

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2710591

[Date of registration] 24.10.1997

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right] 24.10.2002

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 9 - 5 5 6 4 2

(43) 公開日 平成 9 年 (1 9 9 7) 2 月 2 5 日

(51) Int. Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H03J 7/28			H03J 7/28	
5/02		9182-5J	5/02	G
H04B 1/16			H04B 1/16	M

審査請求 有 請求項の数 1 0 O L (全 2 1 頁)

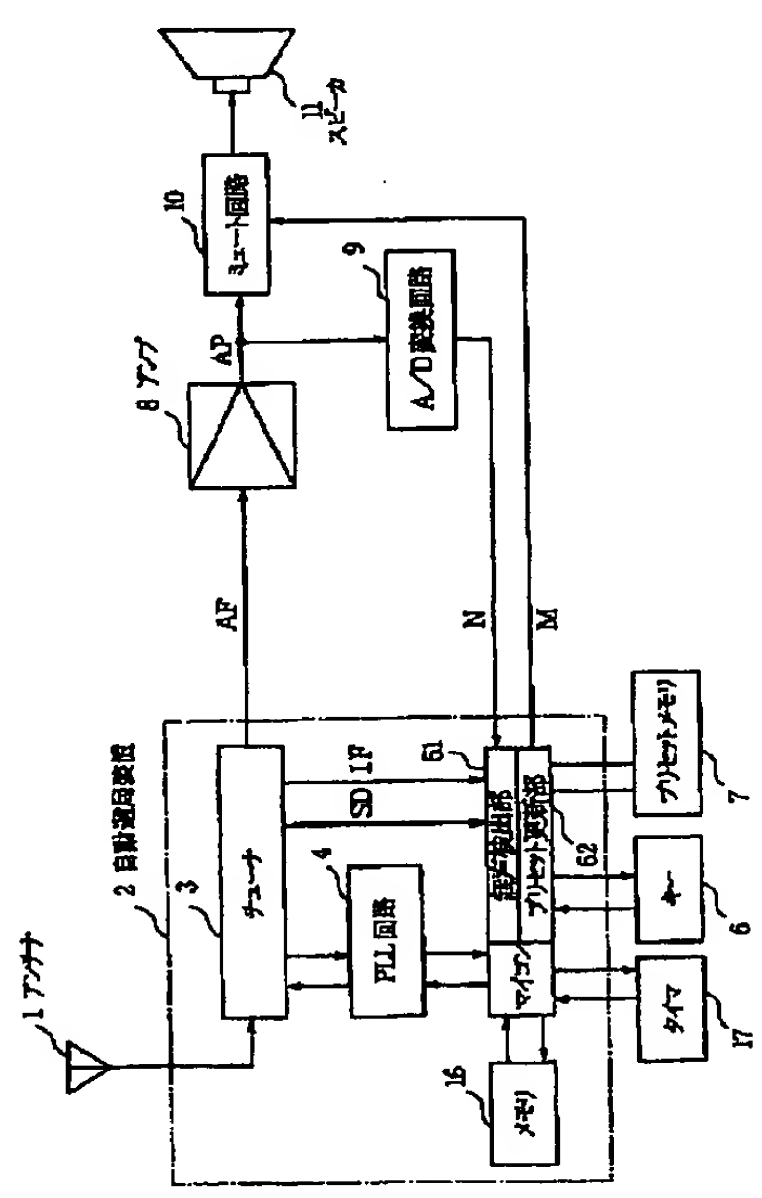
(21) 出願番号	特願平 7 - 2 0 8 8 8 7	(71) 出願人	0 0 0 2 3 2 0 3 6 日本電気アイシーマイコンシステム株式会社 神奈川県川崎市中原区小杉町 1 丁目 4 0 3 番 5 3
(22) 出願日	平成 7 年 (1 9 9 5) 8 月 1 6 日	(72) 発明者	橘 幸男 神奈川県川崎市中原区小杉町一丁目 4 0 3 番 5 3 日本電気アイシーマイコンシステム株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 京本 直樹 (外 2 名)

(54) 【発明の名称】 ラジオ受信機

(57) 【要約】

【課題】 ラジオ聴取中でも自動的にプリセットメモリの更新を行って常に受信状態の良い放送局をプリセットメモリに記憶し、使用者の操作を軽減させる。

【解決手段】 聴取中の放送プログラム対応の記音声信号 A P の無音状態を検出し無音検出信号を出力する無音検出手段 5 1 と、無音期間にプリセット周波数を更新するプリセット更新手段 5 2 とを備える。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 受信帯域内をサーチして一定レベル以上の受信周波数を選択しこの選択した受信周波数情報を複数のプリセット周波数として記憶する書換可能なプリセットメモリと、受信信号レベルに対応する電界強度信号を出力するチューナとこのチューナの同調周波数を制御する制御部とを備え前記プリセット周波数を用いて放送局を自動的に検索し受信信号対応の受信音声信号を出力する自動選局装置と、前記受信音声信号を所定のレベルに増幅し音声信号を出力する音声増幅回路とを備えるラジオ受信機において、

前記制御部が、聴取中の放送プログラム対応の前記音声信号のレベルが予め定めた一定レベル以下である無音状態を検出し無音検出信号を出力する無音検出手段と、前記無音検出信号の供給にตอบสนองして前記無音状態の期間である無音期間に前記プリセット周波数を更新するプリセット更新手段とを備えることを特徴とするラジオ受信機。

【請求項 2】 前記プリセット更新手段が、前記無音検出信号の供給にตอบสนองして前記無音期間が一定時間以上継続した場合に処理可能と判断し更新処理開始信号を出力する無音期間判定手段と、

前記プリセット周波数の各々の対応の第 1 の周波数の第 1 の受信信号を受信しそれぞれの第 1 の受信信号の受信可否を前記電界強度信号を用いて判定し受信不能の第 1 の受信信号対応の第 1 の周波数を選定する第 1 の処理を行うプリセット受信可否判定手段と、

前記プリセット周波数以外の第 2 の周波数の第 2 の放送局の第 2 の受信信号を受信しこの第 2 の受信信号の受信可否を前記電界強度信号を用いて判定しこの第 2 の受信信号が受信可能であると判定したとき前記第 2 の周波数とその電界強度レベルをプリセット更新候補として選定する第 2 の処理を行うプリセット更新候補選定手段と、前記受信不能の前記第 1 の周波数の代りに前記プリセット更新候補の前記第 2 の周波数を前記プリセットメモリに記憶する第 3 の処理を行うプリセットメモリ書換手段とを含むことを特徴とする請求項 1 記載のラジオ受信機。

【請求項 3】 前記音声信号をディジタル変換しディジタル音声信号を前記制御部に供給する A/D 変換器を備えることを特徴とする請求項 1 記載のラジオ受信機。

【請求項 4】 前記音声信号の低域、中域、高域の各々の周波数成分対応の第 1、第 2、第 3 の周波数信号を出力する音声分析回路を備え、

前記制御回路が、前記第 1～第 3 の周波数信号の相互間のレベルの比較結果から前記音声信号対応のプログラム内容を判定しこのプログラム内容から前記無音状態の期間である無音期間を予測するレベル比較無音予測手段をさらに備えることを特徴とする請求項 1 記載のラジオ受信機。

【請求項 5】 前記制御部からの制御信号の供給にตอบสนองして前記音声信号のレベルである音量値を制御する音量調整回路を備え、

前記無音検出手段が、前記音量値に対応して前記無音状態対応の前記一定レベルを可変することを特徴とする請求項 1 記載のラジオ受信機。

【請求項 6】 前記プリセット更新手段が、前記第 1 および第 2 の処理のいずれか一方の終了時に前記音声信号の有音状態であることを確認する有音状態確認手段を備えることを特徴とする請求項 2 記載のラジオ受信機。

【請求項 7】 前記音声信号の無音期間の継続時間を測定するタイマを備え、

前記プリセット更新手段が、過去の前記無音期間の前記継続時間データをもとに 1 回当りの前記第 1 および第 2 の処理の回数を設定する処理回数設定手段を備えることを特徴とする請求項 2 記載のラジオ受信機。

【請求項 8】 前記プリセット更新手段が、聴取中の前記受信信号対応の前記電界強度信号のレベルを参照レベルとして記憶し、前記第 1 の処理において前記第 1 の受信信号が受信不良のとき前記参照レベルと比較し予め定めた一定時間以内に所定レベル以下に低下した場合には再度この第 1 の処理を実行する電界強度変化判定手段を備えることを特徴とする請求項 2 記載のラジオ受信機。

【請求項 9】 地域別に受信可能な放送局の第 3 の周波数を格納した読出専用メモリを備え、

前記プリセット更新手段が、前記第 2 の周波数の代りに前記第 3 の周波数の受信信号を受信することにより前記第 2 の処理を行う第 2 のプリセット更新候補選定手段を備えることを特徴とする請求項 2 記載のラジオ受信機。

【請求項 10】 制御部からの遅延制御信号の供給にตอบสนองして遅延時間が制御され前記音声信号を遅延する音声信号遅延手段と、

前記遅延時間内に前記第 1、第 2 の処理を行うことを特徴とする請求項 1 および 2 記載のラジオ受信機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はラジオ受信機に関し、特にプリセット機能および自動選局機能を有する車載用等のラジオ受信機に関する。

【0002】

【従来の技術】 一般にラジオ受信機は、操作を軽減するために、プリセット機能や自動選局機能を備えている。プリセット機能は、周波数を記憶する書換可能なメモリすなわちプリセットメモリを有し、このプリセットメモリに選局対象の放送局の周波数を選局対象周波数として記憶しておくことにより、その選局対象周波数の受信信号を 1 回の走査で受信する。また、自動選局機能は、選局対象の放送周波数帯域を走査し、自動的に受信対象信号に対する電界強度信号レベルや中間周波数の値でこの受信対象信号の受信可否を判断し、受信可能な放送局の

受信信号周波数を 1 回の走査で検索する。上記プリセットメモリに周波数を記憶する機能として、例えば、特開昭 6 3 - 2 6 0 2 1 7 号公報（文献 1）や実開平 3 - 4 3 3 号公報（文献 2）記載のラジオ受信機のように自動選局装置を用いたオートプリセット処理と呼ばれるものがある。オートプリセット処理は、受信可能な周波数帯域のすべての周波数を 1 つずつ受信していき、それぞれ放送局対応の周波数の受信信号の受信可否を判断し、受信可能な放送局があると判断した周波数の中で電界強度信号レベルが大きい（受信状態が良い）順に、選局対象周波数としてプリセットメモリに書込む処理を自動的に行う。これにより、使用者は、1 つずつ受信状態の良い放送局を選んでそれぞれプリセットメモリに記憶する操作が必要なくなり、1 回の走査でプリセットメモリに受信状態の良い放送局を記憶できる。

【0003】車載用の場合、プリセットメモリに選局対象周波数を記憶した状態で、受信場所を移動すると記憶した選局対象周波数の受信状態が悪くなるため、使用者は、その都度プリセットメモリの内容を更新する操作が必要となる。この対策として、例えば文献 2 記載のラジオ受信機は放送受信モードにないときにそのサービスエリア内の放送局をメモリするとともに、メモリ内容を所定時間毎に更新する。これにより、受信状態の変化に対応し、使用者がラジオを聴取しているのを妨げずに、自動的にプリセットメモリの内容を更新できる。

【0004】文献 2 記載の従来のラジオ受信機をブロック示す図 1 8 を参照すると、この従来のラジオ受信機は、到来電波を捕捉し受信信号 R を自動選局装置 2 に入力するアンテナ 1 と、自動選局を行い選局した受信信号 R を周波数変換してラジオ音声信号 A R を出力する自動選局装置 2 と、使用者が操作して自動選局装置のマイコンに指示を入力するためのキー 6 と、ラジオ音声 A R、コンパクトディスク C D、テープ T P の各プログラム信号の 1 つを選択し音声信号 A F を出力するスイッチ 1 2 と、音声信号 A F を増幅し増幅音声信号 A P を出力するアンプ 8 と、ミュート制御信号 M の供給にตอบสนองして増幅音声信号の出力停止を行うミュート回路 1 0 と、増幅音声信号 A P で駆動され音声に変換するスピーカ 1 1 と、自動選局対象の放送局の周波数を記憶するプリセットメモリ 7 と、マイコン 5 により制御されるタイマ 1 7 とを備える。

【0005】自動選局装置 2 は、受信信号 R を選局・受信処理してラジオ音声信号 A R を出力するチューナ 3 と、チューナ 3 の同調制御用の P L L 回路 4 と、キー 6 で入力された指示に対応した処理とオートプリセット処理を行う制御用のマイクロコンピュータ（マイコン） 5 と、マイコン 5 で受信可否を判定した放送局の受信可否データを記憶するメモリ 1 6 とを備える。

【0006】次に、図 1 8 を参照して、従来のラジオ受信機の動作について説明すると、まず、マイコン 5 は、

受信対象周波数をもとに P L L 回路 4 を設定する。P L L 回路 4 は、チューナ 3 の局部発振周波数等の内部周波数を制御し、チューナ 3 は、この周波数を用いてアンテナ 1 から入力される受信信号 R を周波数変換し、ラジオ音声信号 A R をスイッチ 1 2 に出力する。また、チューナ 3 は選局した周波数対応の受信信号 R の電界強度信号 S D および中間周波数信号 I F をマイコン 5 に供給する。マイコン 5 は、これら 2 つの信号 S D、I F をもとにこの受信信号 R 対応の放送局の受信可否を判断し判断結果の受信可否データをメモリ 1 6 に記憶する。

【0007】スイッチ 1 2 は、マイコン 5 の切換信号 L で制御され、コンパクトディスク C D と、ラジオ音声信号 A R と、テープ T P との各プログラム信号のうちの 1 つを選択し音声信号 A F として出力する。アンプ 8 は、音声信号 A F を増幅して増幅音声信号 A P をミュート回路 1 0 に出力する。ミュート回路 1 0 は、マイコン 5 のミュート制御信号 M で制御され、アンプ 8 から供給される増幅音声信号 A P をそのまま出力するか、もしくは出力を停止する。スピーカ 1 1 は、ミュート回路 1 0 から出力される増幅音声信号を音声に変換して出力する。プリセットメモリ 7 は、マイコン 5 の制御により後述するように自動選局対象の放送局の周波数をプリセットデータとして読出書込される。タイマ 1 7 は、マイコン 5 により制御される。

【0008】次に、オートプリセット処理をフローチャートで示す図 1 9 を併せて参照して従来のオートプリセット処理動作を説明すると、まず、ラジオを聴取中にプリセットメモリ 7 の内容の更新処理を行うと、この処理の間音声は途切れる。その回避のためにマイコン 5 はスイッチ 1 2 の選択入力にラジオ音声信号 A R 以外に、自動的にプリセットメモリ 7 の内容を更新する処理を以下のように行う。

【0009】例えば、使用者がスイッチ 1 2 の入力としてコンパクトディスク C D を選択するようにキー 6 を操作する。マイコン 5 はスイッチ 1 2 の入力を切換え、タイマ 1 7 をリセットする（ステップ P 2）。タイマ 1 7 が 1 0 分経過すると（ステップ P 3）、オートプリセット処理を開始し（ステップ P 4）、処理が終了するとスイッチ 1 2 の入力がラジオ音声信号 A R に設定されるまで（ステップ P 1）、再度タイマ 1 7 をリセットし、1 0 分毎にオートプリセット処理を繰返す。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来のラジオ受信機は、プリセットメモリの更新を更新処理中の音声の中断回避のためラジオの非聴取時に自動的に行うので、ラジオ聴取中に上記プリセットメモリに記憶しているプリセット周波数対応の放送電波の受信状態が劣化した場合、使用者が上記プリセット周波数を選択すると、受信状態の良くない状態で受信してしまうという欠点があった。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 1 】 本発明の目的は、ラジオの聴取中でも自動的にプリセットメモリの内容を更新し、常に良好な受信状態の放送を選択可能とするラジオ受信機を提供することにある。

【 0 0 1 2 】

【課題を解決するための手段】 本発明のラジオ受信機は、受信帯域内をサーチして一定レベル以上の受信周波数を選択しこの選択した受信周波数情報を複数のプリセット周波数として記憶する書換可能なプリセットメモリと、受信信号レベルに対応する電界強度信号を出力するチューナとこのチューナの同調周波数を制御する制御部とを備え前記プリセット周波数を用いて放送局を自動的に検索し受信信号対応の受信音声信号を出力する自動選局装置と、前記受信音声信号を所定のレベルに増幅し音声信号を出力する音声増幅回路とを備えるラジオ受信機において、前記制御部が、聴取中の放送プログラム対応の前記音声信号のレベルが予め定めた一定レベル以下である無音状態を検出し無音検出信号を出力する無音検出手段と、前記無音検出信号の供給に応答して前記無音状態の期間である無音期間に前記プリセット周波数を更新するプリセット更新手段とを備えて構成されている。

【 0 0 1 3 】

【発明の実施の形態】 次に、本発明の第 1 の実施の形態を図 1 8 と共通の構成要素は共通の文字を付して同様にブロックで示す図 1 を参照すると、この図に示す本実施の形態のラジオ受信機は、従来と共通のアンテナ 1 と、キー 6 と、アンプ 8 と、ミュート回路 1 0 と、スピーカ 1 1 と、プリセットメモリ 7 と、タイマ 1 7 とに加えて、自動選局装置 2 の代りに音声信号 A P の無音状態を検出する無音検出部 5 1 とこの無音状態の期間である無音期間にプリセットメモリ 7 に記憶したプリセット周波数を更新するプリセット更新部 5 2 とを含むマイコン 5 A を備える自動選局装置 2 A と、増幅音声信号 A P をデジタル音声信号 N に変換し自動選局装置 2 のマイコン 5 A に供給する A / D 変換回路 9 を備える。

【 0 0 1 4 】 次に、図 1 を参照して本実施の形態の動作について説明すると、まず従来と同様に自動選局装置 2 A は、アンテナ 1 で受信した受信信号 R 対応の音声信号 A F を出力する。アンプ 8 は音声信号 A F を増幅し、増幅音声信号 A P をミュート回路 1 0 および A / D 変換回路 9 に供給する。A / D 変換回路 9 は、増幅音声信号 A P をデジタル音声信号 N に変換しマイコン 5 A に供給する。マイコン 5 A は、無音検出部 5 1 で供給を受けたデジタル音声信号 N から無音の状態を判断し、この無音状態期間にプリセット更新部 5 2 においてプリセットメモリの内容を更新する更新処理を行う。以下説明する実施の形態ではこれら無音検出部 5 1、プリセット更新部 5 2 はマイコン 5 A のソフトウェアに含まれるものとし、特に区別の必要がない限りマイコン 5 A で代表する。

【 0 0 1 5 】 本実施の形態の増幅音声信号 A P とミュート制御信号 M とのタイミング関係をタイムチャートで示す図 2 (A) を参照すると、無音判定 A T 1 は信号 A P の無音状態移行からミュート回路 1 0 の出力停止までの待ち時間である。前ミュート T 2 はミュート回路 1 0 の出力停止から周波数設定 T 3 までの待ち時間である。周波数設定 T 3 はマイコン 5 A の P L L 回路 4 に対する周波数設定時間である。P L L ロック T 4 は P L L 回路 4 の制御対象のチューナ 3 の内部周波数安定時間である。電界強度チェック T 5 は電界強度信号 S D のレベルの確認時間である。中間周波数チェック T 6 は、中間周波数信号 I F の値の確認時間である。後ミュート T 7 は周波数設定 T 3 による周波数設定からミュート回路 1 0 の出力停止の解除までの待ち時間である。周波数設定 T 3 および P L L ロック T 4 は受信処理であり、電界強度チェック T 5 および中間周波数チェック T 6 は放送局の受信可否の判断処理である。

【 0 0 1 6 】 次に、図 1 の回路のオートプリセット更新処理をフローチャートで示す図 3 を併せて参照して本実施の形態のオートプリセット更新処理動作を説明すると、通常、放送音声の中で無音状態になる時間がある。無音検出部 5 1 (以下マイコン 5 A) はこの無音状態を検出し、この無音状態が一定時間以上継続した場合に、プリセット更新部 5 2 (以下マイコン 5 A) は無音期間内に処理可能と判断し更新処理を行う。本実施の形態では説明の便宜上上記一定時間を 2 0 m s と仮定し、2 0 m s 以上無音状態が継続した場合に更新処理を行う (ステップ S 1、S 2)。無音期間の間に処理を終わらせるため、更新処理は、以下に述べるように 3 つの処理に分割して行う (ステップ S 3)。第 1 の更新処理は、プリセットメモリ 7 の中の 1 つの周波数すなわちプリセット周波数を読み込み、そのプリセット周波数を受信し、その周波数の放送局の受信可否を判断し、その結果をメモリ 1 6 に記憶する (ステップ S 4)。第 2 の更新処理は、プリセットメモリ 7 に未記憶の周波数を 1 つ受信し、その周波数の放送局の受信可否を判断し、この放送局の受信可能と判断した周波数とその電界強度信号 S D のレベルとをプリセット更新候補周波数としてメモリ 1 6 に記憶する (ステップ S 5)。第 3 の更新処理は、第 1 の更新処理でメモリ 1 6 に記憶した受信不能のプリセット周波数の代りに第 2 の更新処理でメモリ 1 6 に記憶したプリセット更新候補周波数をプリセットメモリ 7 に書き込む (ステップ S 9)。第 1 および第 2 の更新処理は、1 回の無音期間中の処理 (ステップ S 2 ~ S 7) で 1 つの周波数の受信状態を調べ、それを無音期間毎とに反復し、それぞれの受信可能な全ての周波数に対して行う。

【 0 0 1 7 】 さらに詳述すると、マイコン 5 A は A / D 変換回路 9 からデジタル音声信号 N を入力し、この信号 N のレベルを監視する (ステップ S 1)。ステップ S 1 で無音状態と判断するとタイマ 1 7 をリセットし、こ

の無音状態が 20ms 以上継続するとオートプリセット更新処理を開始する。次に、マイコン 5A はミュート制御信号 M を出力しミュート回路 10 はこのミュート制御信号 M の供給にตอบสนองしてスピーカ 11 に対する増幅音声信号 A/P の出力を停止する (ステップ S 2)。第 1 または第 2 の更新処理のいずれか (ステップ S 3) を 1 回だけ行う。まず、第 1 の更新処理を行い、プリセットメモリ 7 に記憶されている全てのプリセット周波数を調べる。その結果、放送局の受信不能周波数がない場合には次回から第 1 の更新処理を初めから再度行い、放送局の受信不能周波数がある場合には、次回から第 2 の更新処理を行い、放送局の受信可能周波数を検索する。次に、使用者の聴取中の周波数に戻して受信する (ステップ S 6)。次に、マイコン 5A はミュート制御信号 M の出力を停止しこの信号 M の供給停止にตอบสนองしてミュート回路 10 は音声信号 A/P を出力する (ステップ S 7)。第 2 の更新処理が終了すると (ステップ S 8)、第 3 の更新処理 (ステップ S 9) を行い、オートプリセット更新処理を終了する。以上の処理を反復する。

【0018】次に、図 1 と共通の構成でオートプリセット更新処理法が異なる本発明の第 2 の実施の形態の処理を図 3 と共通の構成要素には共通の参照文字/数字を付して同様にフローチャートで示す図 4 を参照すると、この実施の形態の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、無音期間中の処理の終了前に、聴取中の放送局の音声の無音状態 B の確認処理 (ステップ S 10) を含むことである。

【0019】本実施の形態の増幅音声信号 A/P とミュート制御信号 M とのタイミング関係をタイムチャートで示すを参照すると、第 1 の実施の形態の T 1 ~ T 37 に加えて聴取中の放送局の音声の有音状態の確認時間 T 8 が付加される。

【0020】図 4 を参照して本実施の形態の動作について説明すると、前述の第 1 の実施の形態では 1 回の無音期間中に第 1 または第 2 の更新処理を 1 回だけ処理して処理を終了しても、放送はまだ無音期間中である可能性がある。しかし、第 1 の実施の形態ではこの無音期間中にもう 1 回処理可能な時間がある場合でも処理を 1 度終了し、再度初めから放送の無音期間を検出する。本実施の形態では、無音期間中の処理の終了時に、聴取中の放送プログラムが無音状態であることを確認し、有音状態となるまで処理を反復する。

【0021】マイコン 5A は、音声出力停止の解除 (ステップ S 7) の前に、A/D 変換回路 9 の出力するデジタル音声信号 N を確認する (ステップ S 10)。無音状態であれば次の周波数の放送局の確認を行い、有音状態であれば音声停止の解除を行い、この処理を終了する。

【0022】次に、図 1 と共通の構成でオートプリセット更新処理法が異なる本発明の第 3 の実施の形態の処理

を図 3 と共通の構成要素には共通の参照文字/数字を付して同様にフローチャートで示す図 5 を参照すると、この実施の形態の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、1 回の無音期間で放送局の受信可否の確認局数の設定処理 (ステップ S 13 ~ 218) と、設定局数無音期間中に反復する処理 (ステップ S 19) を含むことである。

【0023】図 5 を参照して本実施の形態の動作について説明すると、前述の第 2 の実施の形態では、2 局以上の放送局の受信可否を 1 回の無音期間で確認する場合、1 度使用者の聴取中の放送局を受信し、無音状態を確認する必要があった。そこで、過去の無音期間のデータをもとに、無音期間の時間の予測をし、次の無音期間のときに放送局の受信可否の確認局数を設定する。本実施の形態では、予測時間の 2 分の 1 の時間で上記確認局数を設定すると仮定し、1 回の無音期間で複数の周波数に対して放送局の受信可否を確認する。

【0024】マイコン 5A は、A/D 変換回路 9 から音声信号 N を入力し、無音期間/有音期間の変化を検出する (ステップ S 13)。ステップ S 13 で無音期間/有音期間の変化を検出すると、以下の処理を行う。音声信号 N の有音状態から無音状態への変化から再度有音状態に変化するまでの無音時間をタイマ 17 を用いて測定する (ステップ S 14)。測定した上記無音時間をメモリ 16 に記憶する (ステップ S 15)。メモリ 16 に記憶された過去の無音時間データをもとに、次の無音期間の予測時間を設定する (ステップ S 16)。例えば、過去に 100ms 以上の無音期間が継続していると、上記予測時間を 100ms に設定する。設定した上記予測時間の 2 分の 1 の時間で受信可否確認可能放送局数を設定し、メモリ 16 に記憶する (ステップ S 17)。例えば、予測時間が 100ms であれば、50ms 以内に上記確認可能な放送局数を設定する。その後、無音期間中の更新処理ステップ S 3 ~ S 5 をメモリ 16 に記憶した局数分だけ反復する (ステップ S 19)。

【0025】次に、本発明の第 4 の実施の形態を図 1 と共通の構成要素は共通の文字を付して同様にブロックで示す図 6 を参照すると、この図に示す本実施の形態のラジオ受信機の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、増幅音声信号 A/P の周波数特性を分析するための音声分析回路 18 を備えることである。

【0026】音声分析回路 18 は、音声信号 A/P の低、中、高各周波数帯域対応のフィルタである LPF 19, MPF 20, HPF 21 と、A/D 変換回路 22 とを備える。

【0027】各フィルタ LPF 19, MPF 20, HPF 21 は、音声信号 A/P を入力し低、中、高それぞれの周波数帯に分けて出力する。A/D 変換回路 22 は、これら LPF 19, MPF 20 および HPF 21 の出力信号を、それぞれ A/D 変換してそれぞれデジタル音声

信号 N 1, N 2, N 3 を出力する。

【 0 0 2 8 】次に、本実施の形態の処理を図 3 と共通の構成要素には共通の参照文字／数字を付して同様にフローチャートで示す図 7 を参照すると、この実施の形態の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、放送プログラム内容に対応して 1 回の無音期間で受信可否確認する放送局数の設定処理（ステップ S 2 0 ～ 2 2 4）と、上記設定局数分だけ無音期間中の更新処理ステップ S 3 ～ S 5 を反復する処理（ステップ S 2 5）とを含むことである。

【 0 0 2 9 】次に、図 6, 図 7 を参照して本実施の形態の動作について説明すると、放送プログラムの内容により、無音期間の継続時間や、頻度が異なる。ニュースや講演等のように人の話が主体のプログラムでは、無音状態の継続時間が長かつ頻度は多い。また、音楽プログラムのときは、無音状態の継続時間が短かつ頻度は少ない。したがって、本実施の形態ではプログラムの内容を周波数特性から判断し、このプログラムの内容をもとに、1 回の無音期間内で受信可否の確認放送局数を設定する。

【 0 0 3 0 】人声と音楽の各プログラムの周波数特性の一例を L P F 1 9, M P F 2 0, H P F 2 1 の各々の中心周波数 f L, f M, f H と対比してそれぞれ示す図 8 (A), (B) を参照すると、人声は中域周波数 f M のレベルが低域、高域各周波数より圧倒的に大きい。一方、音楽は中域が最もレベルは高いが低域、高域とのレベル差は小さい。したがって、本実施の形態では、音声分析回路 1 8 の出力音声信号 N 1, N 2, N 3 の各レベルを比較し、信号 N 2 のレベルが最大で、かつ N 2 と N 1, および N 2 と N 3 のレベル比が d B 値で 2 倍以上でなければ、このプログラムを音楽であると判断し、これより 1 回の無音期間内での受信可否確認可能局数を設定する。

【 0 0 3 1 】まず、マイコン 5 A は、音声分析回路 1 8 からそれぞれの周波数帯の音声信号 N 1, N 2, N 3 の信号を入力し、各レベルを判断する（ステップ S 2 0）。このレベルの判断は、例えば平均化法などを用いる。次に、各周波数帯の音声信号 N 1 ～ N 3 のレベルを比較し、プログラム内容を判断する（ステップ S 2 1）。例えば、N 1, N 2, N 3 の各々のレベルが 3 0 d B, 4 5 d B, 1 5 d B であれば、N 2 のレベルが最大であり、かつ N 2, N 3 のレベルの比は 3 倍であるが、N 2, N 1 のレベル比が 1. 5 倍であるので、現在のプログラム内容は音楽であると判断する。次に、その判断結果をメモリ 1 6 に記憶する（ステップ S 2）。次に、メモリ 1 6 に記憶したプログラム内容により、1 回の無音期間で可能な受信可否の確認局数を設定し（ステップ S 2 3）、メモリ 1 6 に記憶する（ステップ S 2 4）。例えば、メモリ 1 6 に記憶したプログラムが音楽であれば、無音期間継続時間は短いと判断し、1 回の無

音期間内で 1 局だけ受信可否確認するように設定する。次に、メモリ 1 6 に記憶した局数分だけ無音期間中の更新処理ステップ S 3 ～ S 5 を反復する（ステップ S 2 5）。

【 0 0 3 2 】次に、図 1 と共通の構成でオートプリセット更新処理法が異なる本発明の第 5 の実施の形態の処理を図 3 と共通の構成要素には共通の参照文字／数字を付して同様にフローチャートで示す図 9 を参照すると、この実施の形態の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、電界強度信号 S D をメモリ 1 6 に記憶する処理（ステップ S 2 6）を有することと、第 2 の更新処理を開始するステップ S 4, S 5 の分岐の判断処理ステップ S 3 の代わりにメモリ 1 6 に記憶した電界強度信号 S D の変化をもとに判断するステップ S 2 7 を有することである。

【 0 0 3 3 】図 9 を参照して本実施の形態の動作について説明すると、周知のように、放送電波の受信状態の劣化原因によって電界強度信号 S D の変化態様が異なる。電界強度信号 S D の変化の例を示す図 1 0 を参照すると、(A) は放送局からの距離の増加等により電界強度信号 S D が次第に低減する場合を示し、その変化はゆるやかである。(B) はトンネルに進入したときのように突然電波障害物で遮蔽されたような場合を示し、電界強度信号 S D が急激な変化を示す。本実施の形態では、この電界強度信号 S D の変化の態様から受信地点の電波状態を判断し、第 2 の更新処理の開始／非開始を判断する。説明の便宜上、本実施の形態では電界強度信号 S D が一定時間 5 0 0 m s 以内に受信可否判断レベルである 3 0 d B から 1 0 d B に低下した場合は、一時的に受信条件の悪い場所に移動したと判断するものとし、上記更新処理の開始／非開始の判断を行う。

【 0 0 3 4 】まず、マイコン 5 A は、聴取中の放送の電界強度信号 S D のレベルを入力し、メモリ 1 6 に記憶する（ステップ S 2 6）。マイコン 5 A は、第 1 の更新処理において、プリセットメモリ 7 に格納されたプリセット周波数のうち受信不良の周波数を見つけたとき、メモリ 1 6 に記憶した電界強度信号 S D のレベルを参照し、聴取中の放送局の受信状態が急激に劣化していれば、第 2 の更新処理を開始しない（ステップ S 2 7）。例えば、5 0 0 m s の間に 3 5 d B から 1 0 d B まで急激に低下しているとする、ステップ S 2 7 では、再度第 1 の更新処理を行う。

【 0 0 3 5 】図 1 0 を再度参照してステップ S 2 7 の第 2 の更新処理の開始／非開始の判断例について説明すると、(B) の場合は電界強度信号 S D が急激に落ちているので、上述のようにトンネルなどの一時的に受信状態の悪い場所に移動したと判断し、他の放送局も受信状態が悪いので第 2 の更新処理を開始しない。(A) の場合は電界強度信号 S D が徐々に低下しているため、上述のように聴取中の放送局から離れたことによる受信状態の劣化と判断し、他の放送局は検索できるので第 2 の更新

処理を開始する。

【 0 0 3 6 】次に、本発明の第 6 の実施の形態を図 1 と共通の構成要素は共通の文字を付して同様にブロックで示す図 1 1 を参照すると、この図に示す本実施の形態のラジオ受信機の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、マイコン 5 A からの音量制御信号 P により音声信号 A P のレベルを制御する音量調整回路 2 3 を備えることである。

【 0 0 3 7 】また、本実施の形態の処理を図 3 と共通の構成要素には共通の参照文字／数字を付して同様にフローチャートで示す図 1 2 を参照すると、この実施の形態の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、無音判定のレベルの設定処理（ステップ S 2 8, S 2 9）と、上記設定レベルで無音状態を判断する処理（ステップ S 3 0）とを含むことである。

【 0 0 3 8 】次に、図 1 1, 図 1 2 を参照して本実施の形態の動作について説明すると、受信状態や音量の違いにより、使用者の聴取音声レベルの範囲が異なるので、本実施の形態では受信状態または音量に依存して無音判断レベルの設定を変化させる。まず、マイコン 5 A は、聴取中の周波数の電界強度信号 S D を測定し、それに対応した無音判断レベルを設定する（ステップ S 2 8）。さらに、使用者がキー 6 で設定した音量値に対応して無音判断レベルを設定する（ステップ S 2 9）。マイコン 5 A は、上記設定レベルと音声信号 N のレベルとを比較し、上記設定レベルの方が大きいとき無音状態と判断する（ステップ S 3 0）。

【 0 0 3 9 】上記無音判定レベルの設定例について説明すると、受信状態が良いときは全体的に大きい音になるので小さい音は余りないと判断し、無音判断レベルを大きくする。逆に受信状態が悪いときは全体的に小さい音になるので、無音判断レベルを小さくする。また聴取音量が小さいときは大きい音しか聞こえないので、無音判断レベルを大きくし、逆に聴取音量が大きいときは小さい音まで聞こえるので、無音判断レベルを小さくする。

【 0 0 4 0 】次に、図 1 と共通の構成でオートプリセット更新処理法が異なる本発明の第 7 の実施の形態の処理を図 3 と共通の構成要素には共通の参照文字／数字を付して同様にフローチャートで示す図 1 3 を参照すると、この実施の形態の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、第 2 の更新処理（ステップ S 5）を 2 つの処理（ステップ S 3 1, S 3 2）に分割する分岐処理（ステップ S 3 0）を有することと、更新処理終了時の第 3 の更新処理（ステップ S 8, S 9）の代わりに、電界強度信号 S D による放送局の検索終了後に、放送局ありと判断した周波数を電界強度信号 S D の大きさの順に並び変える処理（ステップ S 3 4, S 3 5）を有することである。

【 0 0 4 1 】図 1 3 を参照して本実施の形態の動作について説明すると、上述の第 1 ～第 6 の実施の形態では無音期間毎に処理を分割して行うので、処理量が多いと時

間がかかってしまう。本実施の形態では、最初に電界強度信号 S D のみの検索を行い、次に、電界強度信号 S D の大きいものから、中間周波数 I F で放送局の受信可否の確認を行うための検索をする。まず、プリセットメモリ 7 に未記憶の周波数を 1 つ受信し、その周波数の電界強度信号 S D を入力しこの信号 S D だけで放送局の受信可否を判断して、受信可能と判断したときは、メモリ 1 6 にその周波数と S D レベルを記憶する（ステップ S 3 1）。ステップ S 3 1 で全ての周波数の検索が終了したら（ステップ S 3 4）、ステップ S 3 1 でメモリ 1 6 に記憶した周波数を電界強度信号 S D のレベルの大きさの順に並び変える（ステップ S 3 5）。次に、ステップ S 3 5 で並び変えた周波数を S D の大きいものから順に 1 局ずつ受信し中間周波数 I F を確認して、受信可能と判断したときは、プリセットメモリ 7 に格納中の受信不可能なプリセット周波数に代りその周波数を記憶する（ステップ S 3 2）。上記受信不可能プリセット周波数がなくなった時点で終了する。

【 0 0 4 2 】次に、本発明の第 8 の実施の形態を図 1 と共通の構成要素は共通の文字を付して同様にブロックで示す図 1 4 を参照すると、この図に示す本実施の形態のラジオ受信機の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、地域別に受信可能な放送局の周波数を記録した読出専用メモリ（ROM）2 4 を備えることである。

【 0 0 4 3 】また、本実施の形態の処理を図 3 と共通の構成要素には共通の参照文字／数字を付して同様にフローチャートで示す図 1 5 を参照すると、この実施の形態の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、第 2 の更新処理がステップ S 5 の代りに地域の受信可能放送局の周波数を検索するステップ S 3 6 を含むことである。

【 0 0 4 4 】本実施の形態の動作について説明すると、これまでの実施の形態では、全周波数に対して放送局の検索を行うので時間がかかってしまう。本実施の形態では、受信中の地域の放送局の周波数を受信可能局として優先をして検索する。すなわち地域別に受信可能放送局の周波数を予め ROM 2 4 に記憶しておき、検索をそれらの周波数に対してだけ行う。まず、現在特定中の地域の ROM 2 4 に記憶されている放送局の周波数を 1 局ずつ受信し、電界強度信号 S D および中間周波数 I F で受信可否を確認し、受信可能なときはメモリ 1 6 にその周波数と電界強度信号 S D を記憶する（ステップ S 3 6）。地域の特定は、例えば、受信可能と判断した放送局の周波数とメモリ 2 2 に記憶した地域別の放送局の周波数を比較して特定したり、この比較だけでは同一周波数の放送局がある地域が複数あるため特定できないときは、以前の特定データをもとに特定する。

【 0 0 4 5 】上述の第 6 ～第 8 の実施の形態では電界強度の大きい周波数を最初に検索するステップ S 3 1 や、地域別の受信可能放送局の周波数を記憶した ROM 2 4 を用いることにより検索処理時間が早くできる。例え

ば、検索対象周波数範囲が 76.0 MHz ~ 89.9 MHz で、検索ステップを 0.1 MHz とすると、140 局の周波数を検索することになる。このとき、地域別に受信可能な放送局が 10 局の場合は 14 分の 1 の速度で検索できる。

【0046】次に、本発明の第 9 の実施の形態を図 1 と共通の構成要素は共通の文字を付して同様にブロックで示す図 16 を参照すると、この図に示す本実施の形態のラジオ受信機の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、アナログの音声信号 A P をデジタル音声信号 D P に変換する A/D 変換回路 25 と、デジタル音声信号 D P を遅延しマイコン 5 A からの遅延制御信号 O により遅延時間を制御して遅延音声信号 D を生成する遅延回路 26 と、遅延音声信号 D を再度アナログ音声信号 D A に変換する D/A 変換回路 27 とを備えることである。

【0047】また、本実施の形態の処理を図 3 と共通の構成要素には共通の参照文字/数字を付して同様にフローチャートで示す図 17 を参照すると、この実施の形態の前述の第 1 の実施の形態との相違点は、遅延時間を制御する処理（ステップ S 37 ~ 239, 241）と、無音期間中に、放送局の検索の中断の判断処理（ステップ S 40）を含むことである。

【0048】次に、図 16, 図 17 を参照して本実施の形態の動作について説明すると、上述の各実施の形態では無音期間が短いときには、実際の無音時間よりも無音期間中の処理時間の方が長くなる。本実施の形態では出力音声信号に遅延回路を挿入することにより、遅延音声信号を出力するまでの間に無音期間中の処理を行う。ここでは、1 ms ごとに 22.6 μs ずつ音声信号を遅延させ、遅延回路に入力した音声信号を出力している間に無音期間中の処理を行う。

【0049】まず、マイコン 5 A は、遅延回路 26 を最大遅延となるように制御し、1 ms 毎に（ステップ S 38）22.6 μs ずつ音声信号 D P を遅延させる（ステップ S 39）。遅延回路 26 が最大遅延値に達すると遅延制御を停止させ、無音検出を開始する（ステップ S 37）。次に、遅延回路 26 から遅延音声信号 D が出力されている間に無音中の処理を反復する。マイコン 5 A は、遅延回路 26 の音声信号 D がなくなる前に（ステップ S 40）使用者の聴取中の周波数を受信して、ミュート回路 10 の出力停止を解除する。遅延回路 26 を制御し、遅延音声信号 D が無音状態のところで遅延時間を 0 にして音声信号 D P をそのまま出力させる（ステップ S 41, 図 17）。以上の処理を繰り返し行う。

【0050】また、第 1 ~ 第 9 の実施の形態では、無音状態の判断をマイコン 5 A が行っているが、A/D 変換回路 9 の代りに、比較器等で構成した無音検出回路を用いることによりマイコン 5 A が有音/無音の差異をハイ/ロレベルだけで判断することもできる。

【0051】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のラジオ受信機は、無音検出手段とプリセット更新手段とを備え、無音期間を利用してプリセット更新処理を行うため、常に受信状態の良い放送局が自動的にプリセットメモリに記憶されるので、使用者のプリセット更新操作が不要となり、操作が軽減できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明のラジオ受信機の第 1 の実施の形態を示すブロック図である。

10 【図 2】第 1 および第 2 の実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すタイムチャートである。

【図 3】第 1 の実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 4】本発明の第 2 の実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 5】本発明の第 3 の実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 6】本発明のラジオ受信機の第 4 の実施の形態を示すブロック図である。

20 【図 7】本実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 8】人声と音楽の各プログラムの周波数特性の例を示す特性図である。

【図 9】本発明の第 5 の実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 10】電界強度信号の変化態様の例を示す図である。

【図 11】本発明のラジオ受信機の第 6 の実施の形態を示すブロック図である。

30 【図 12】本実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 13】本発明の第 7 の実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 14】本発明のラジオ受信機の第 8 の実施の形態を示すブロック図である。

【図 15】本実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 16】本発明のラジオ受信機の第 9 の実施の形態を示すブロック図である。

40 【図 17】本実施の形態のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【図 18】従来のラジオ受信機の一例を示すブロック図である。

【図 19】従来のラジオ受信機における動作の一例を示すフローチャートである。

【符号の説明】

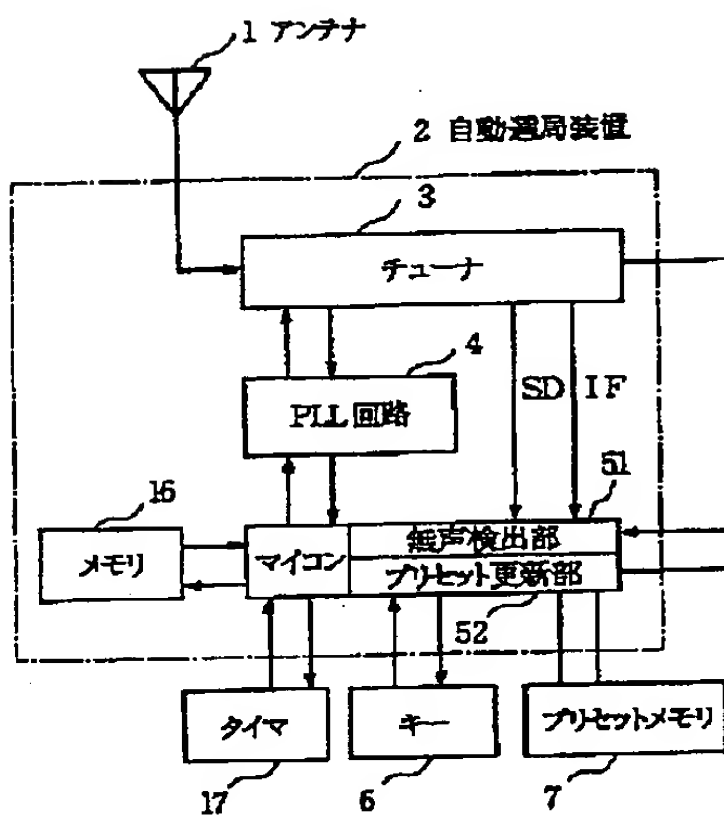
- 1 アンテナ
- 2, 2 A 自動選局装置
- 3 チューナ
- 4 PLL 回路

5, 5A マイコン
 6 キー
 7 プリセットメモリ
 8 アンプ
 9, 22, 25 A/D変換回路
 10 ミュート回路
 11 スピーカ
 12 スイッチャ
 16 メモリ
 17 タイマ

18 音声分析回路
 19 LPF
 20 MPF
 21 HPF
 23 音量調整回路
 24 ROM
 26 遅延回路
 27 D/A変換回路
 51 無音検出部
 10 52 プリセット更新部

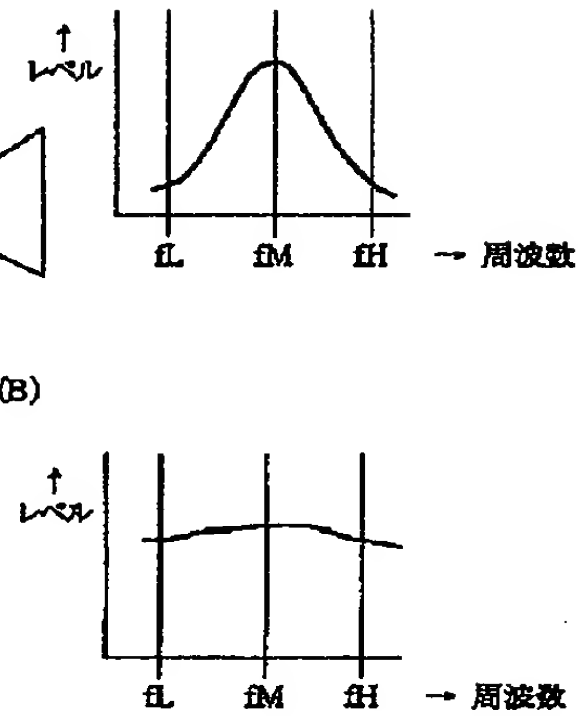
【図 1】

【図 8】



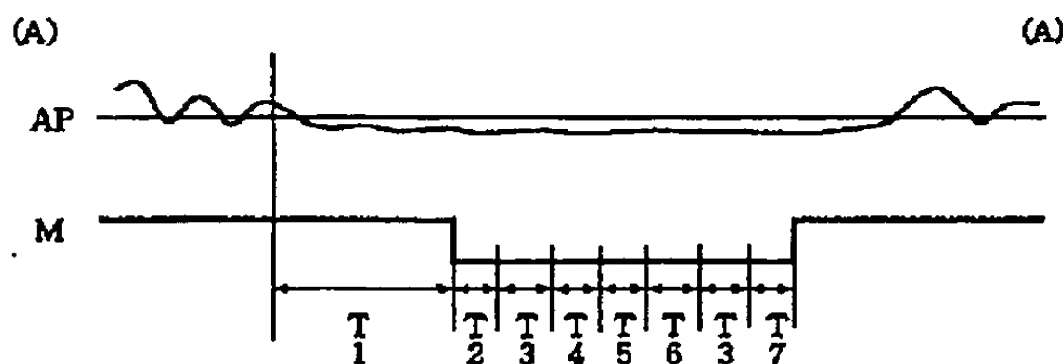
(A)

(B)



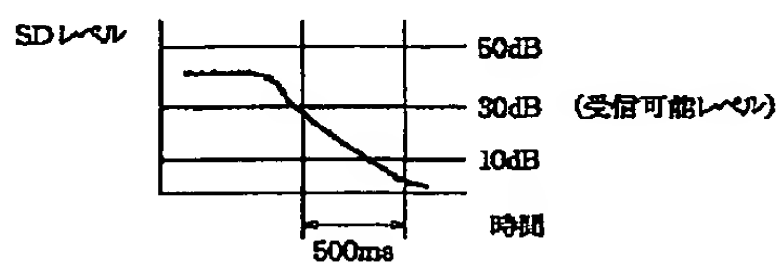
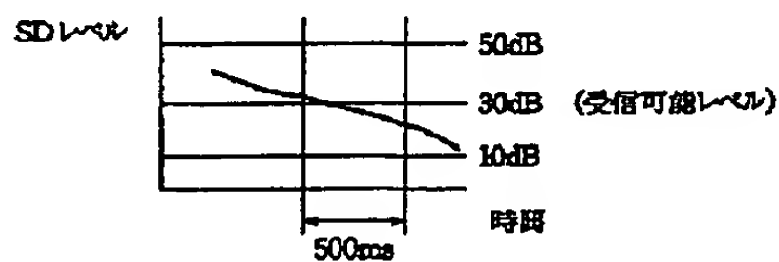
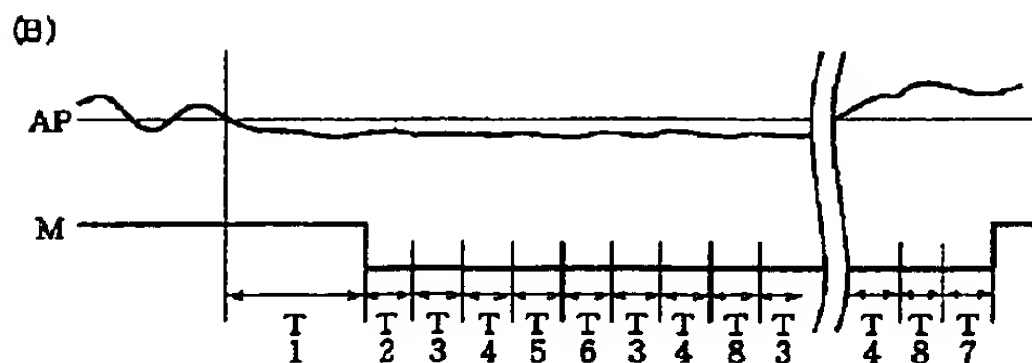
【図 2】

【図 10】

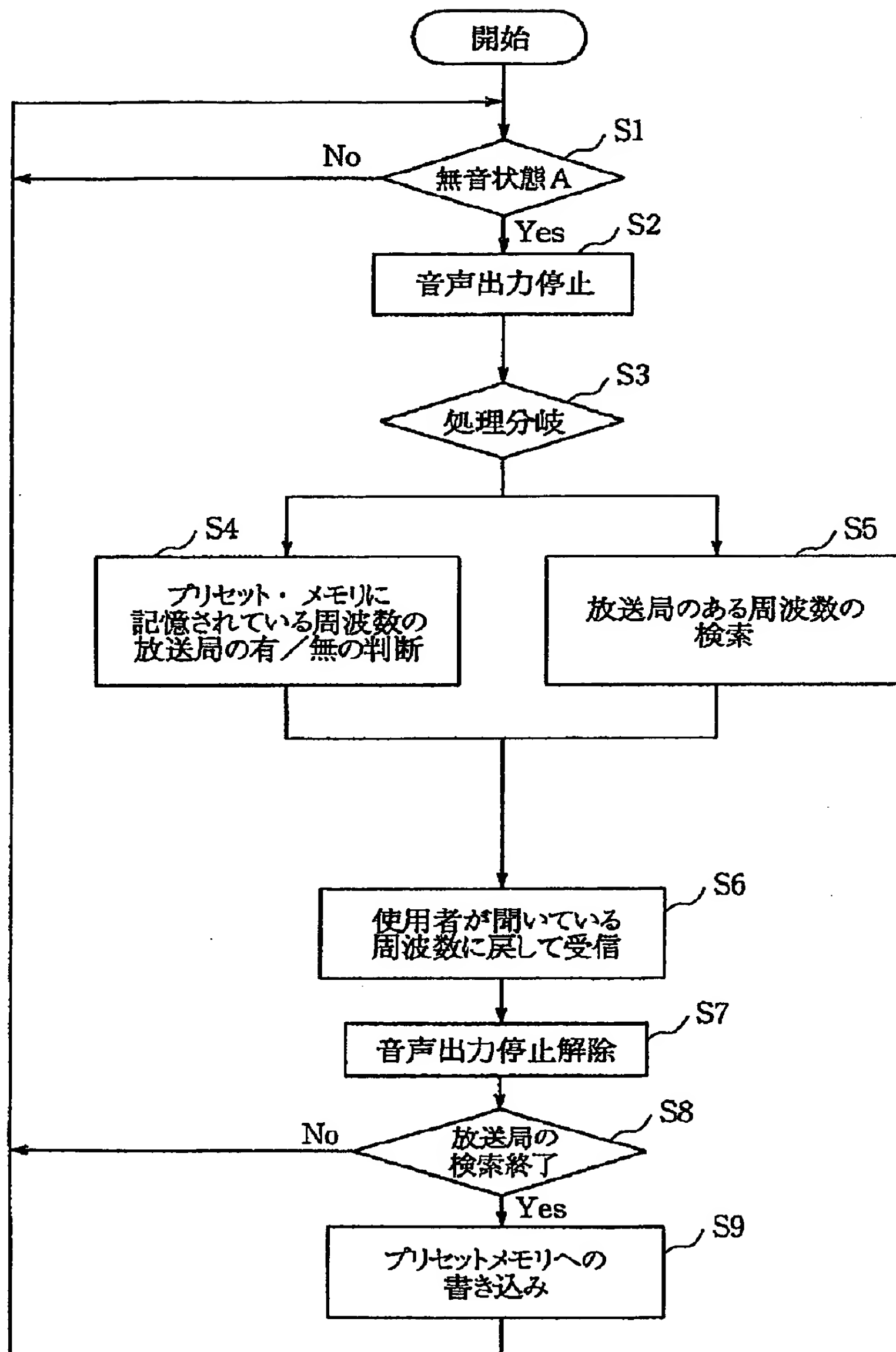


(A)

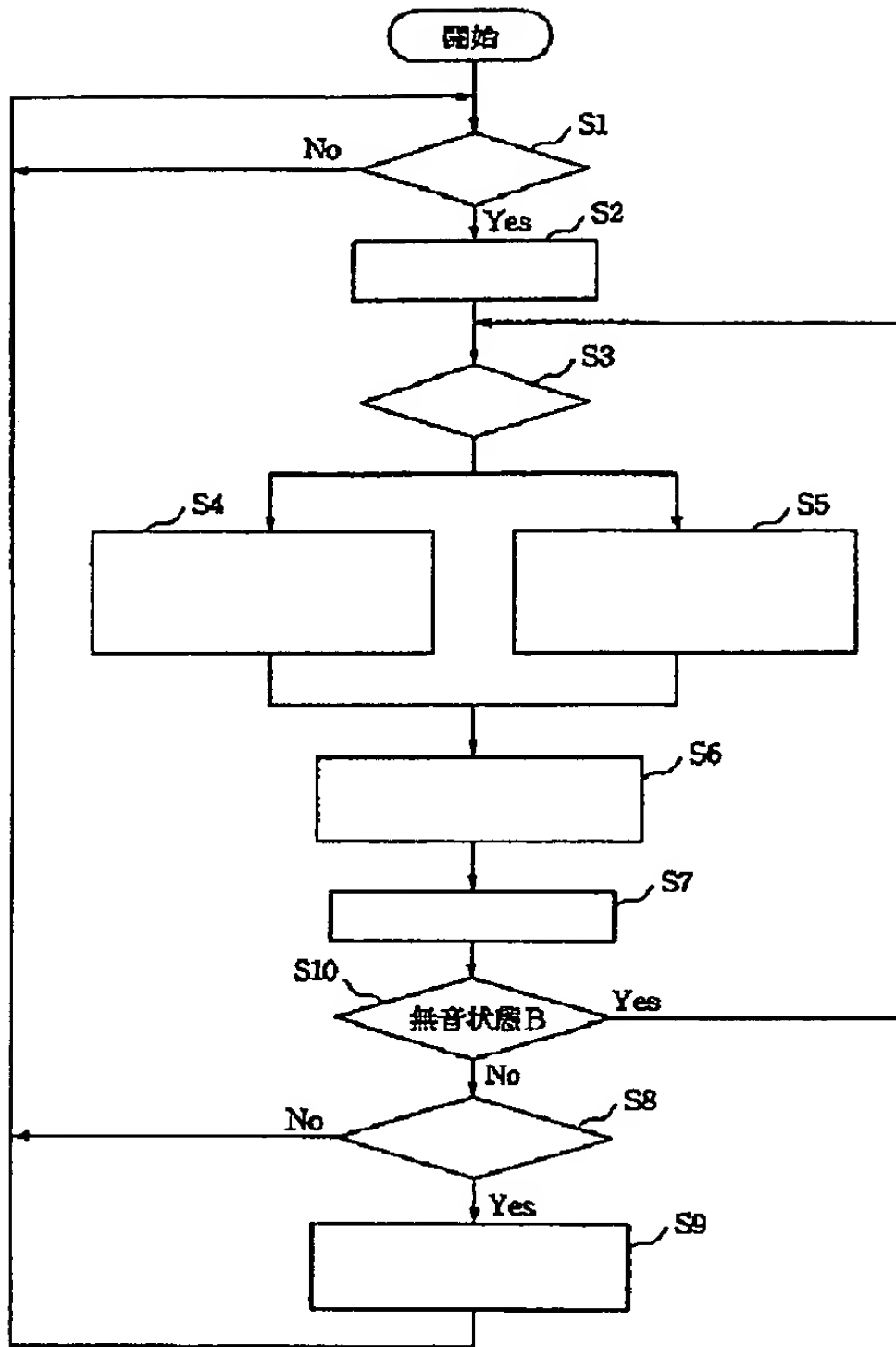
(B)



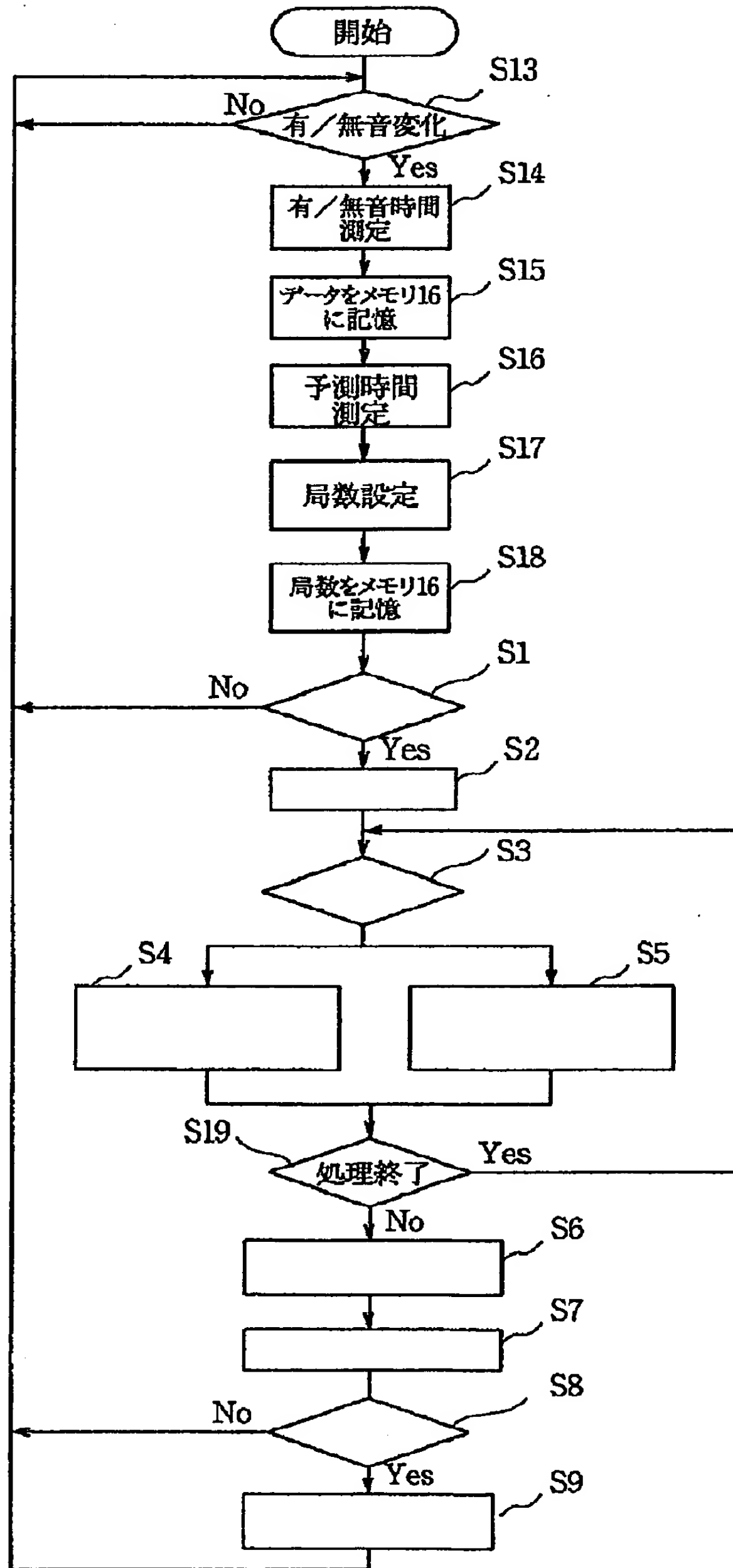
【図 3】



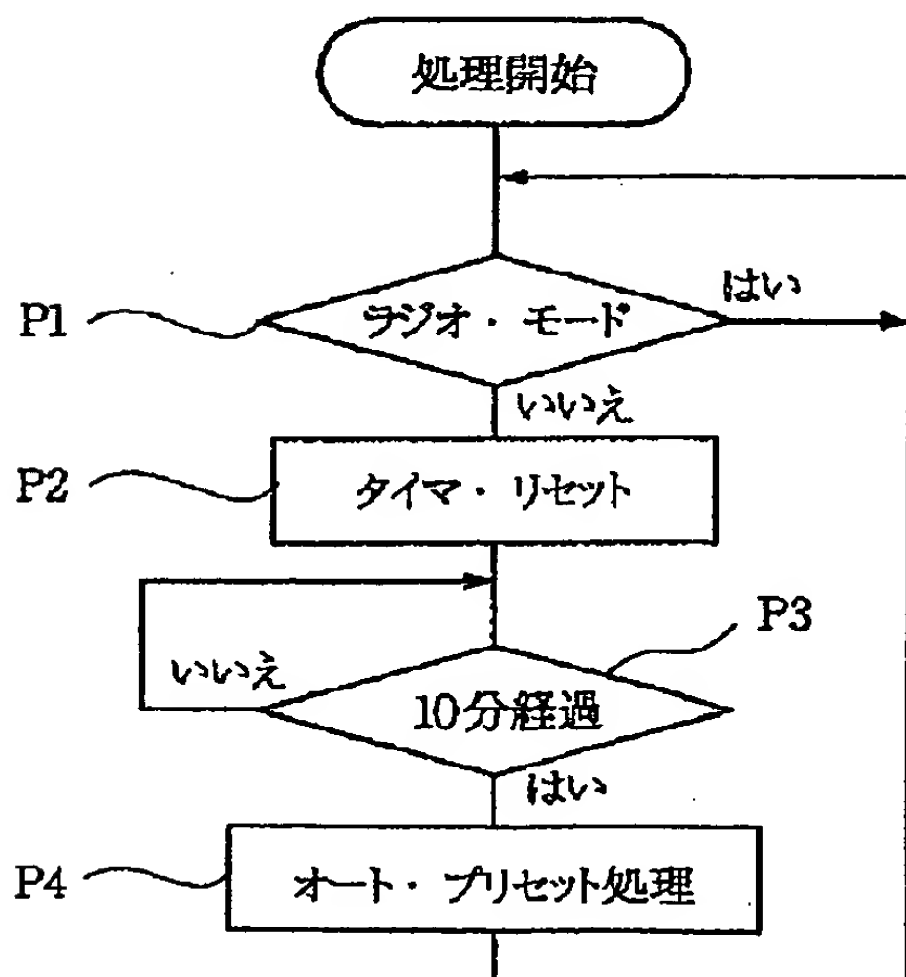
【図 4】



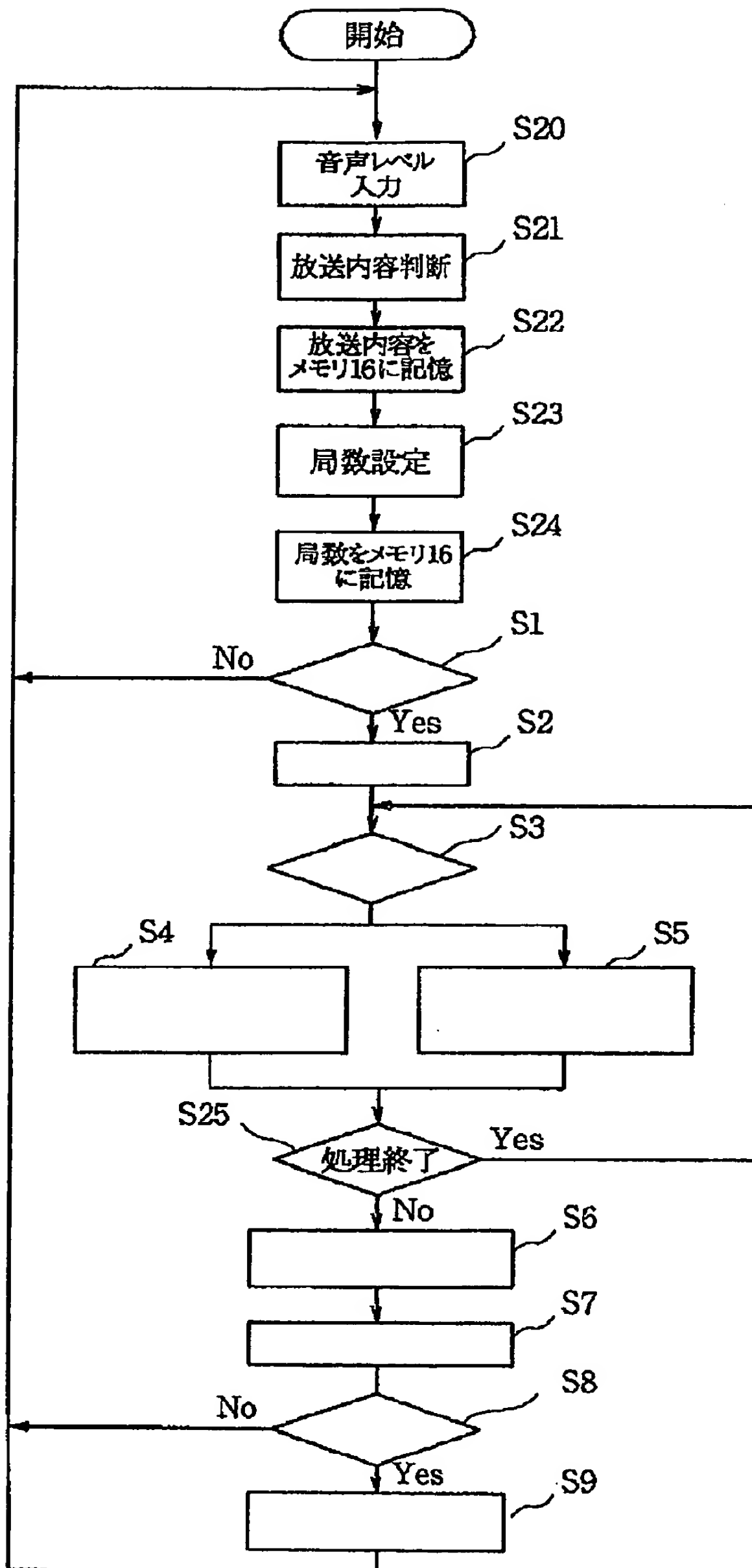
【図 5】



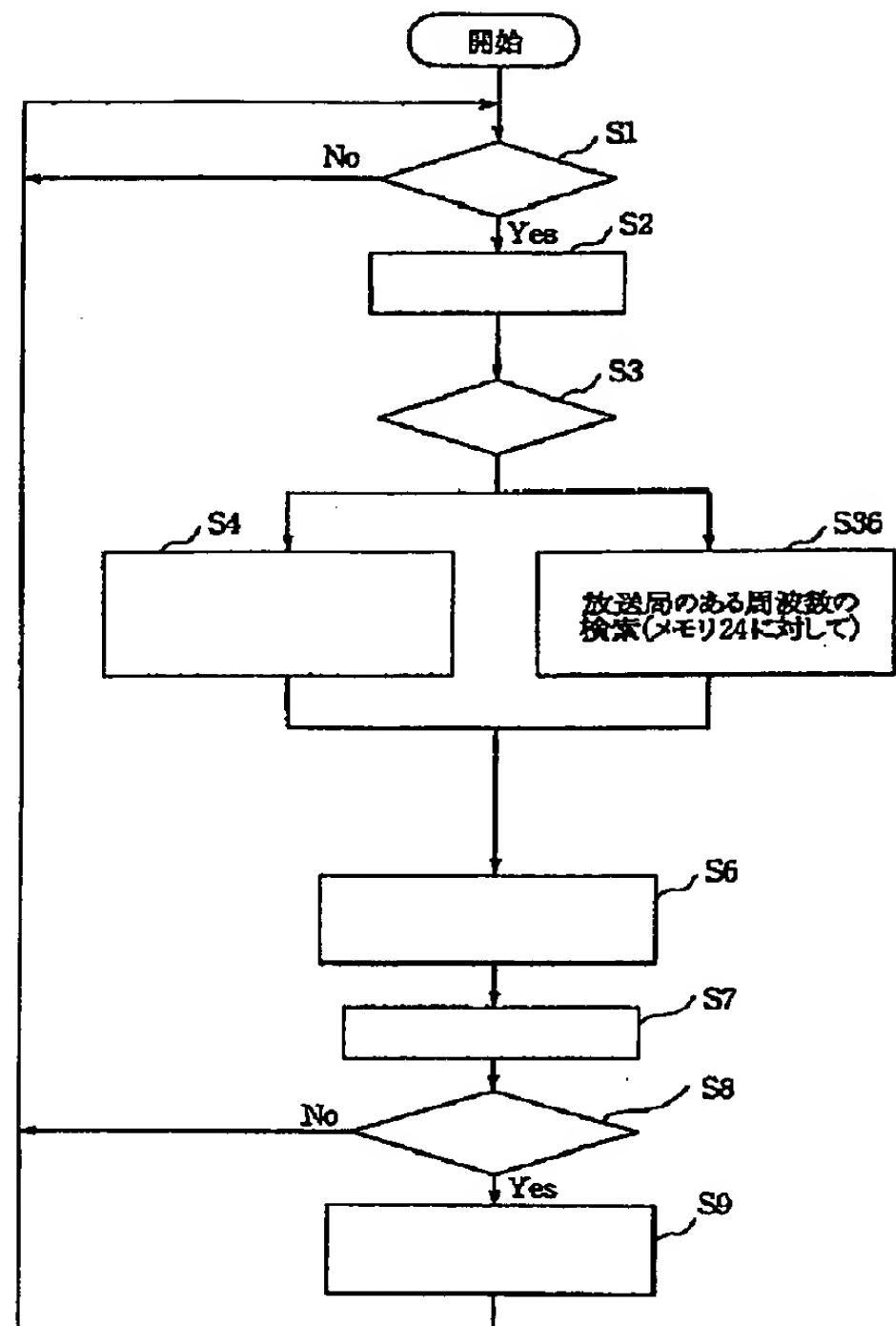
【図 19】



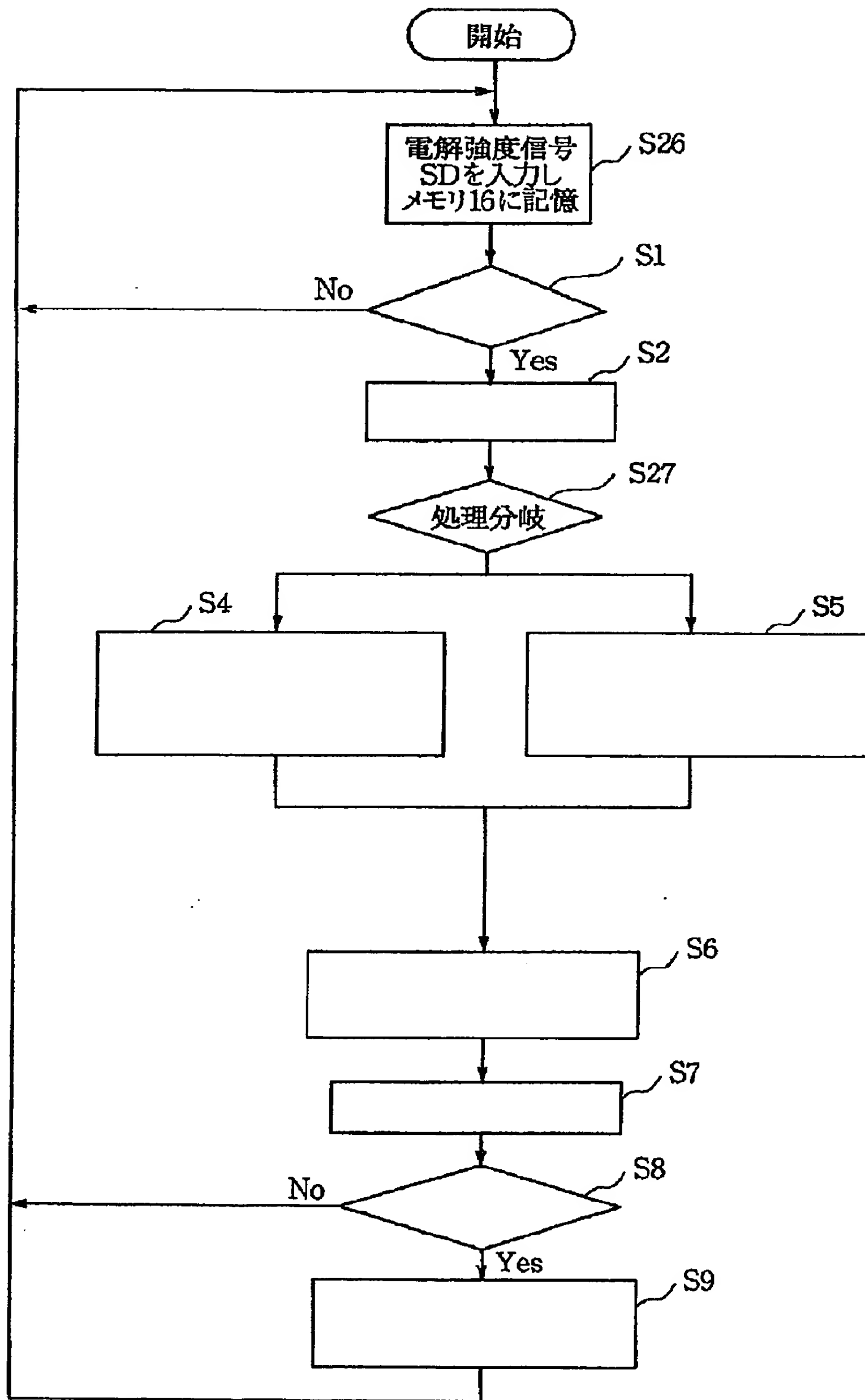
【図 7】



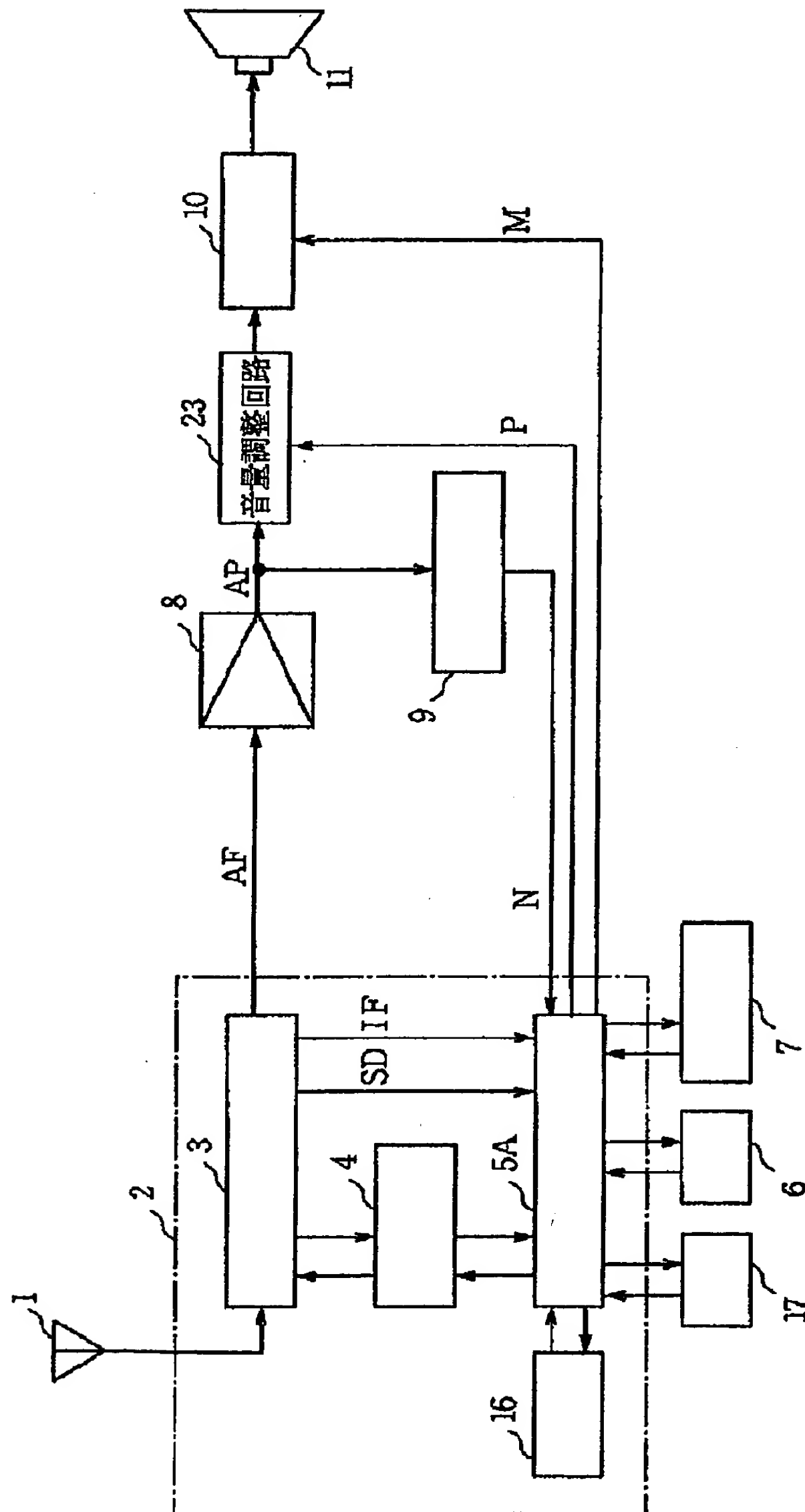
【図 15】



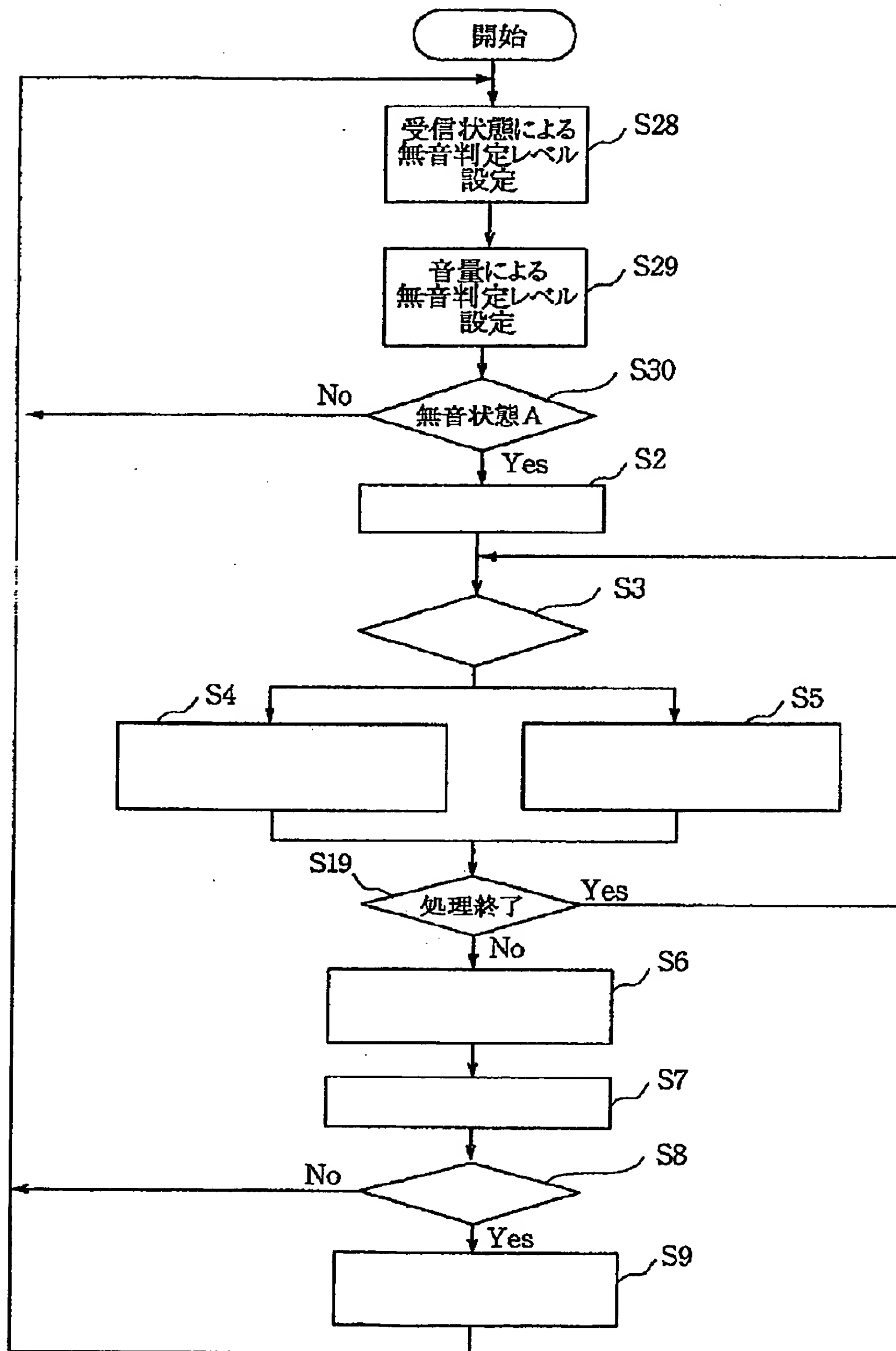
【図 9】



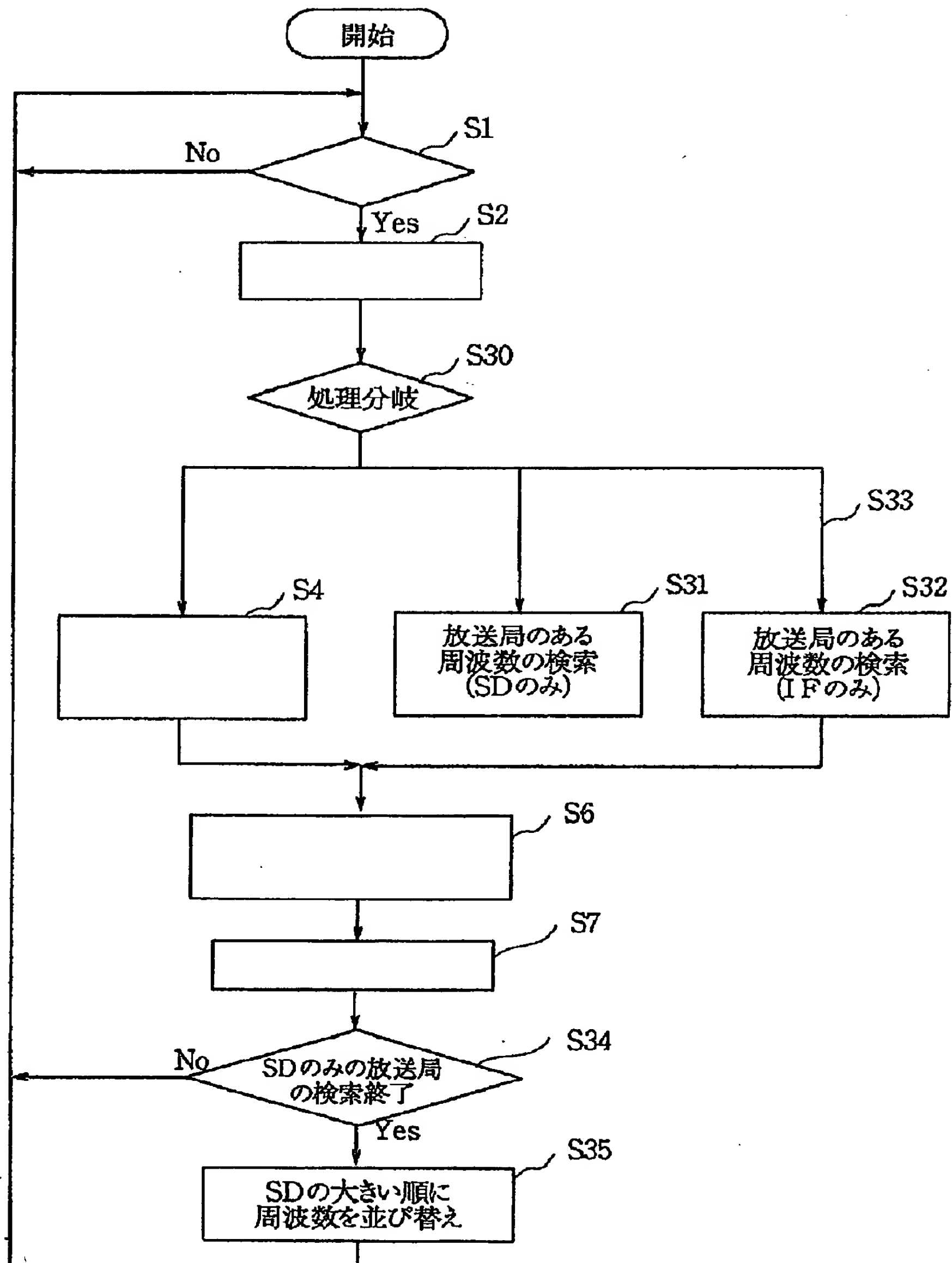
【図 1 1】



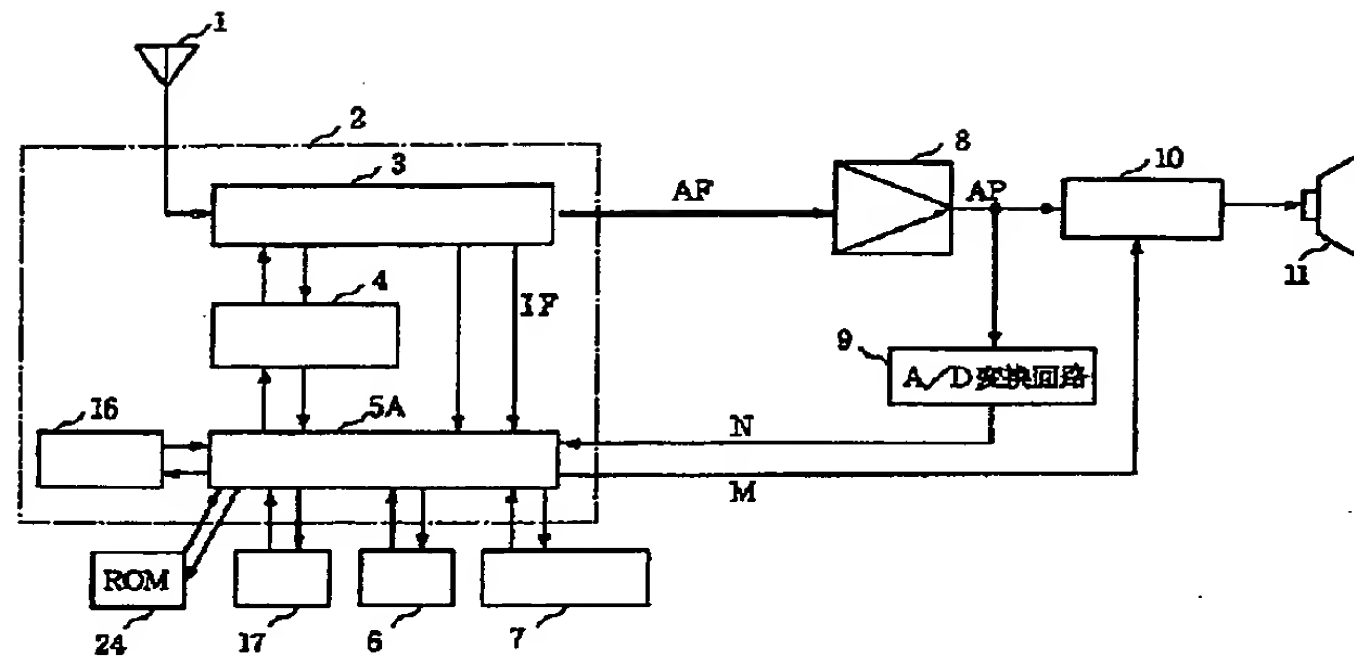
【図 1 2】



【図 1 3】

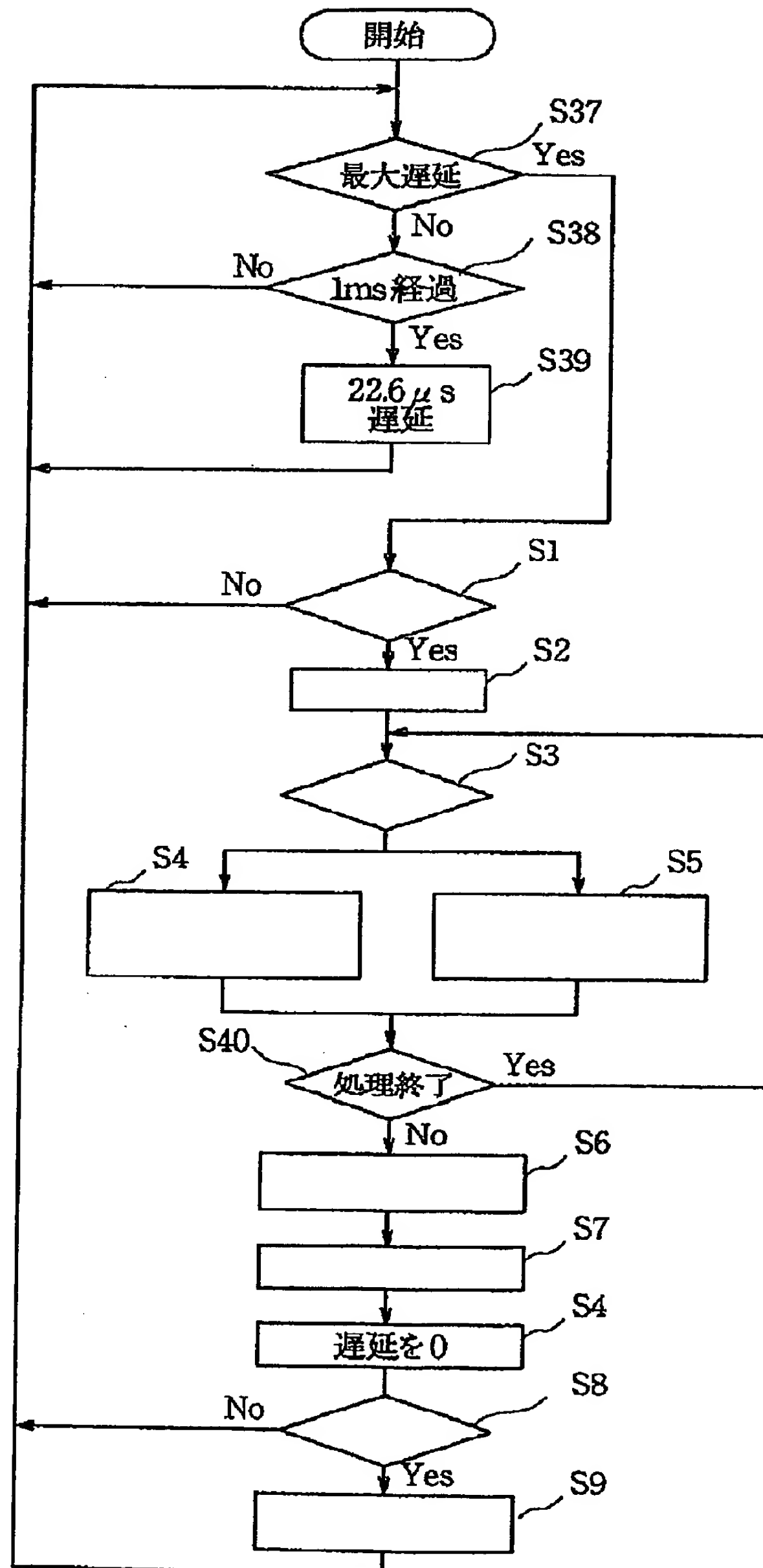


【図 1 4】



[illegible]

【図 17】



【図 18】

